

精密設計反応場を利用した高難度変換反応の開発

趣旨：本企画では、精密に設計した遷移金属錯体反応場や生体反応場等を利用した高難度分子変換反応の開発に取り組んでいる研究者が集い、最先端の研究成果を基にして、今後の日本の当該分野の将来展望について討議することを目的としている。具体的には、水、窒素、二酸化炭素、アルカン等に代表される小分子の触媒的分子変換反応と達成が困難であったアルコールの脱水素反応や α -ヘテロカルボニル化合物の触媒的不斉合成等に代表される触媒的有機合成反応についても議論する。

実施時間：3月19日(日) 午前

会場：慶應義塾大学日吉キャンパス S8 会場 (第4校舎独立館2階D205室)

プログラム：

09:30- 趣旨説明

09:40- 水分子の特異な触媒的変換反応の開発

正岡重行 (分子科学研究所)

10:05- 多核チタンヒドリド錯体による窒素分子変換反応の開発

島隆則 (理化学研究所)

10:30- 二酸化炭素固定化反応における還元手法の開発

岩澤伸治 (東京工業大学理学院)

10:55- 生体触媒の誤作動を利用するガス状アルカンの触媒的変換反応

荘司長三 (名古屋大学理学研究科)

11:20- 機能性配位子を有するイリジウム錯体触媒を用いた高難度脱水素化反応の開発

藤田健一 (京都大学大学院人間・環境学研究科)

11:45- α -ヘテロカルボニル化合物の触媒的不斉合成

大井貴史 (名古屋大学トランスフォーメティブ生命分子研究所)

12:10- 閉会挨拶